

# 若年性乳癌の治療

# 症例

▶ 30歳女性

【主訴】 右乳房腫瘍

【現病歴】 検診で右乳房腫瘍を指摘され、精査目的に受診。右D領域に25mm大の腫瘍を触知した。乳癌の家族歴はないが、遺伝性乳癌を心配している。

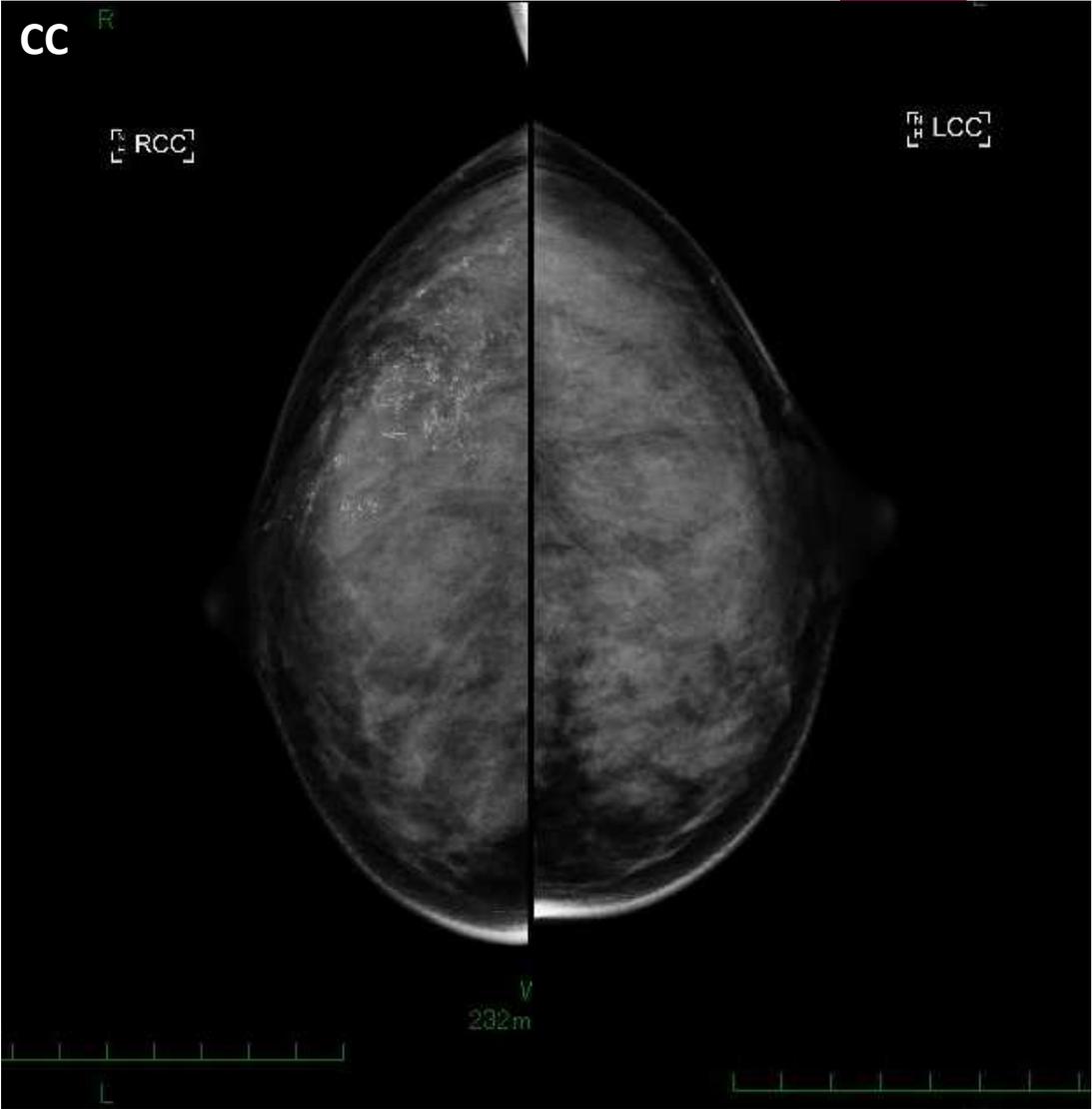
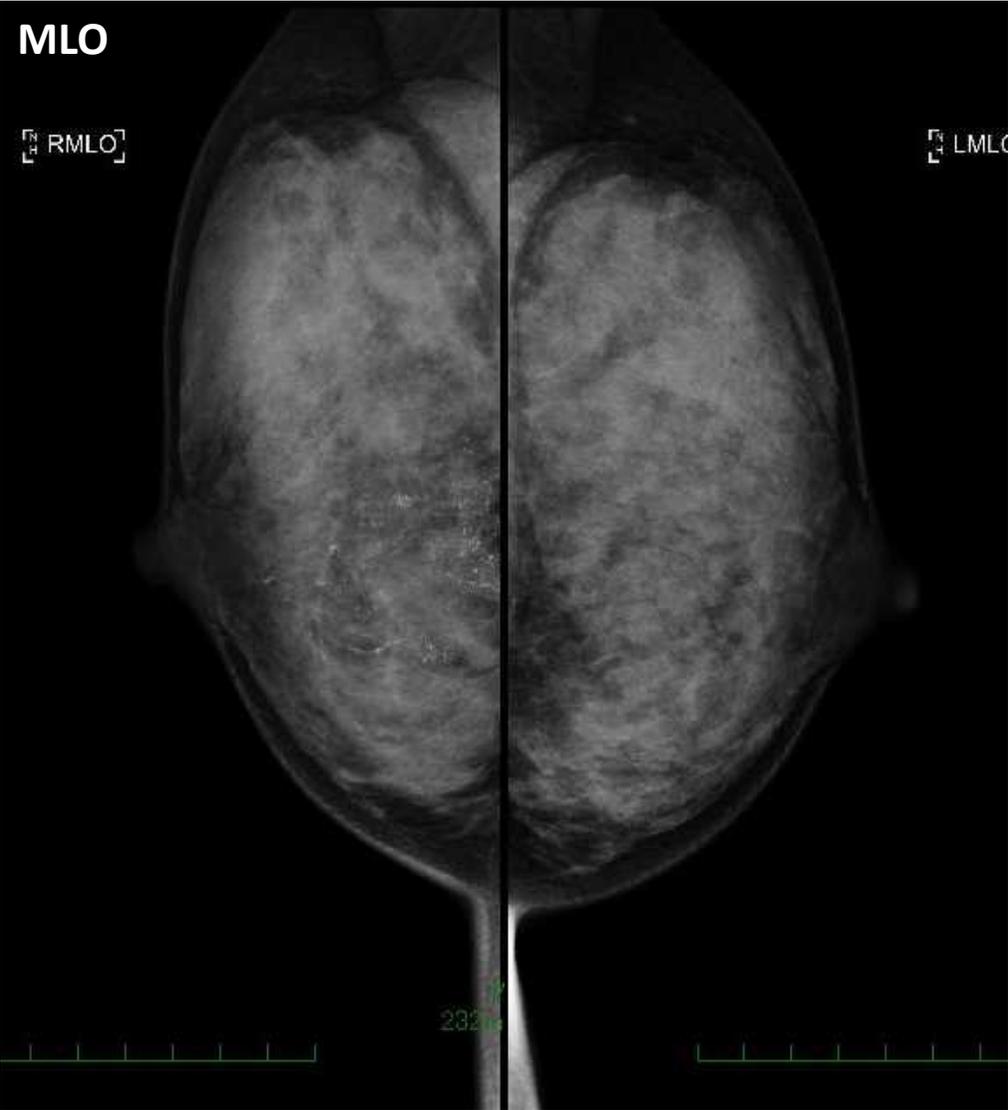
【家族歴】 特記事項なし

【既往歴】 幼少期に心房中隔欠損症で手術

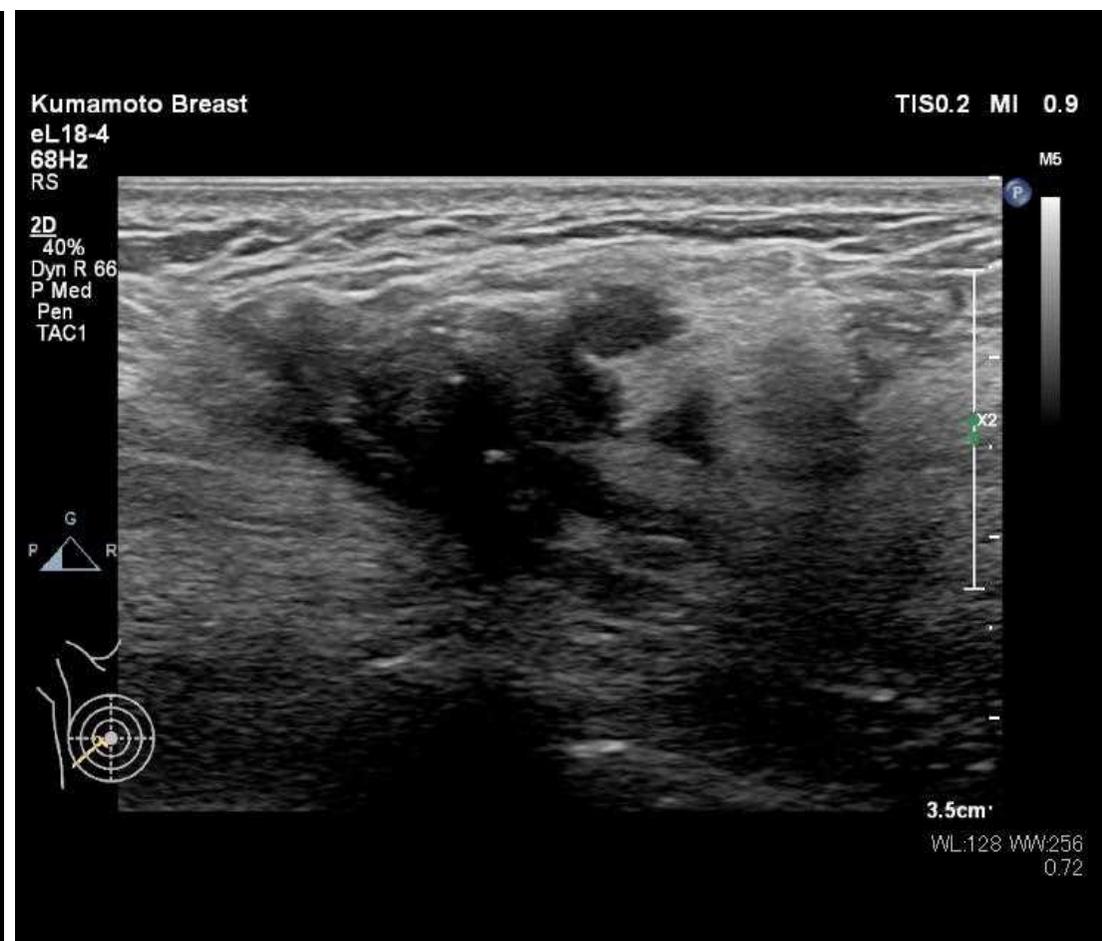
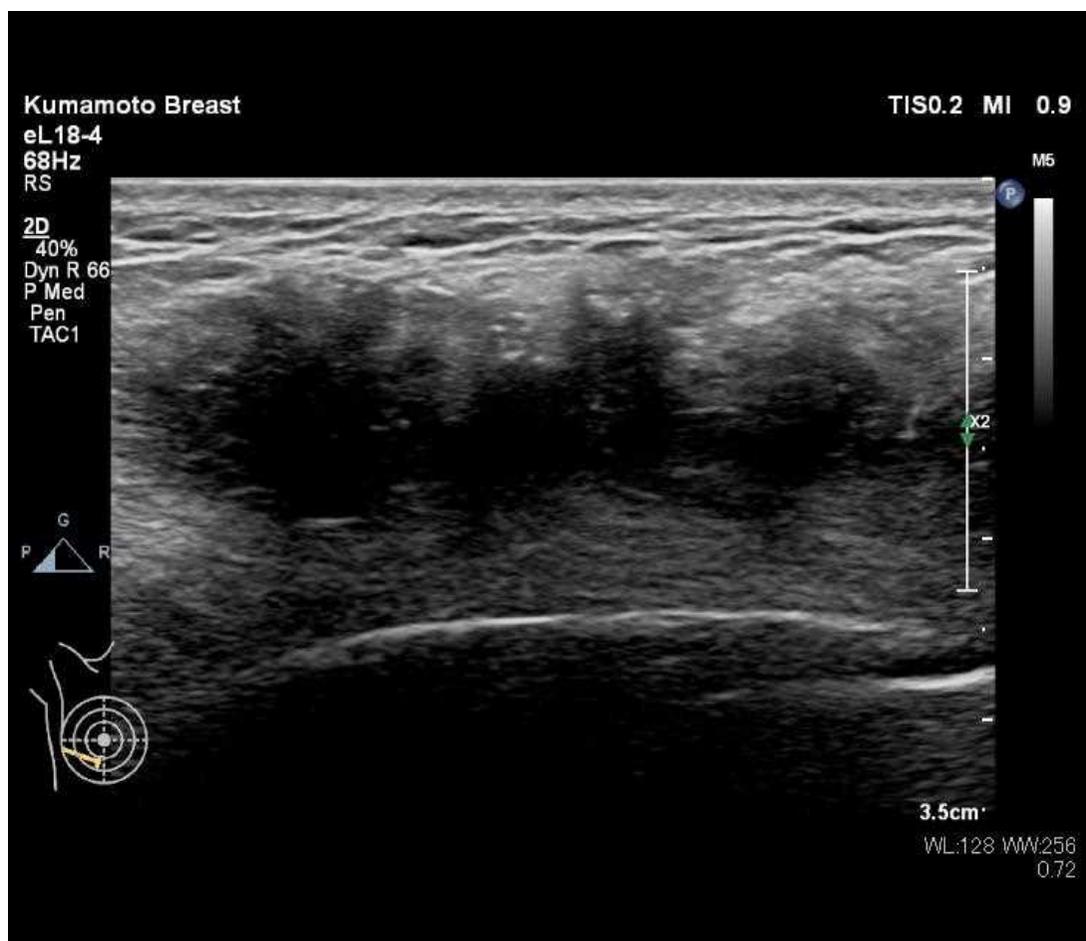
【生活】 1か月後に結婚式を控えている。

【身体所見】 右C領域に25mmの表面やや不整な硬い腫瘍を触知。弾性硬の腋窩リンパ節も触知した。

# MMG



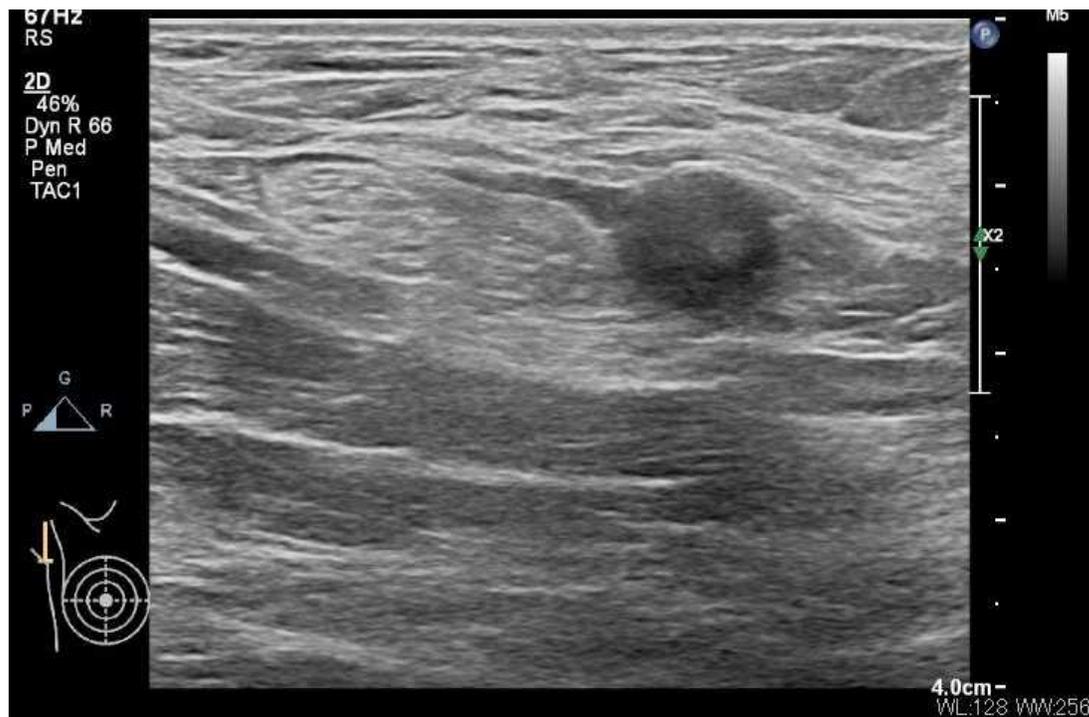
# 乳房超音波検査



右乳房下外側に42.3×27.4×13.4mmの低エコー域を認める。内部に石灰化を含む。

# 乳房超音波検査

右腋窩リンパ節

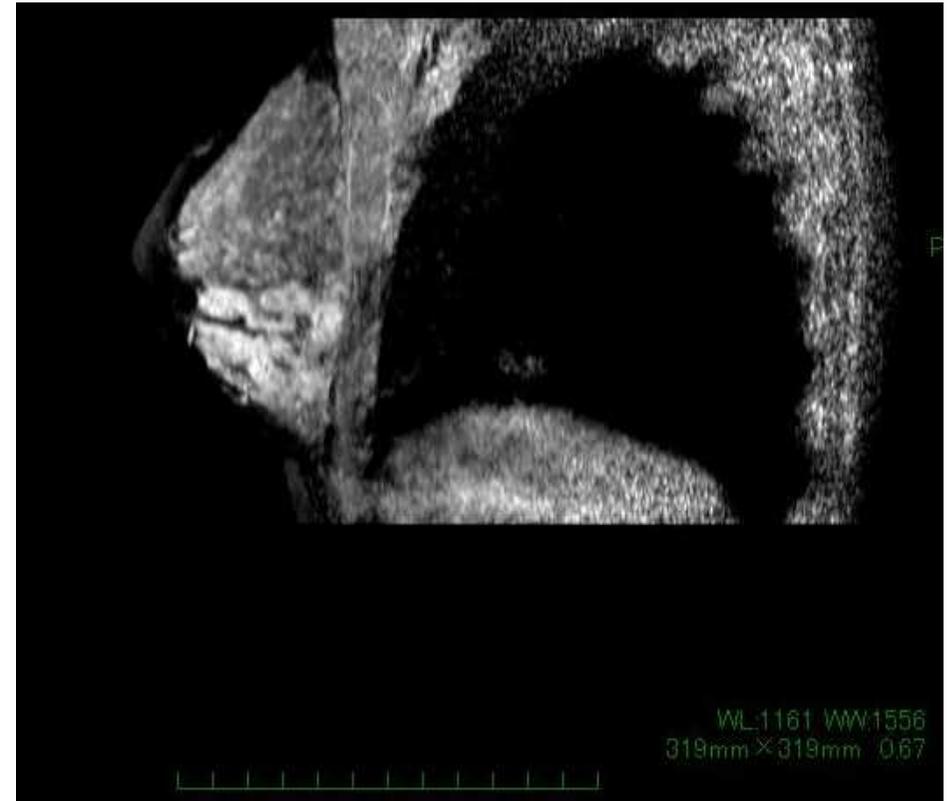


右腋窩Level I に皮質肥厚のある  
腫大リンパ節を1個認める。

# 乳房造影MRI検査

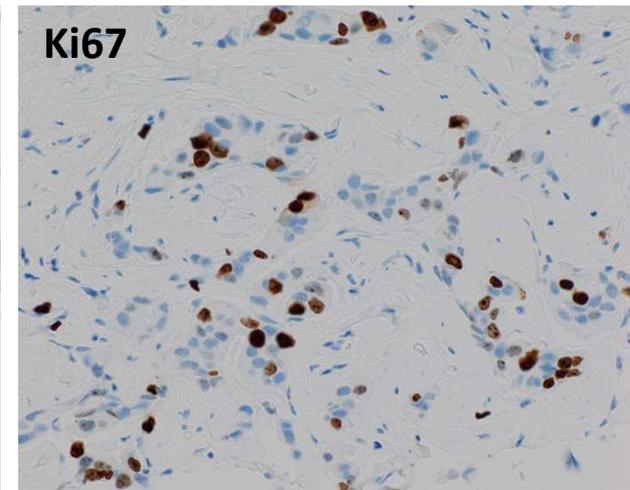
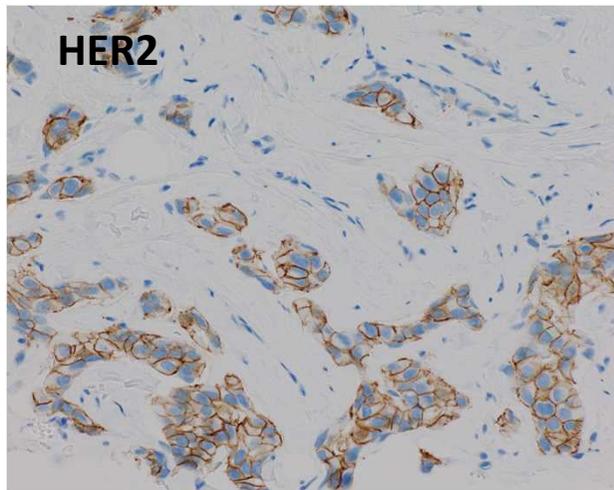
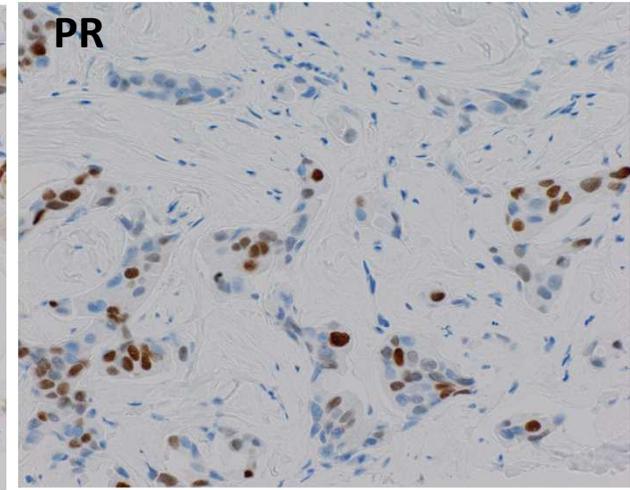
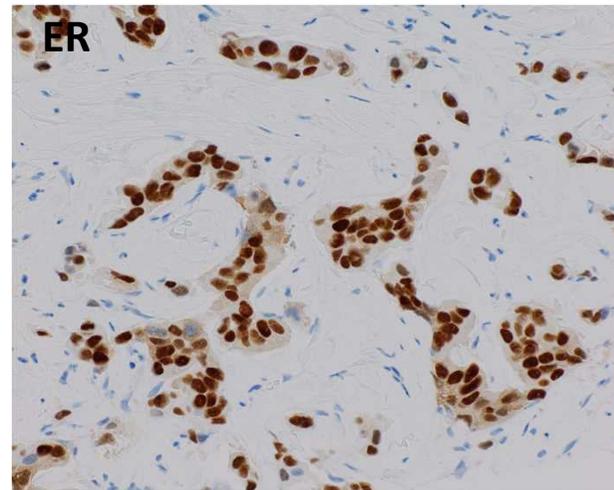
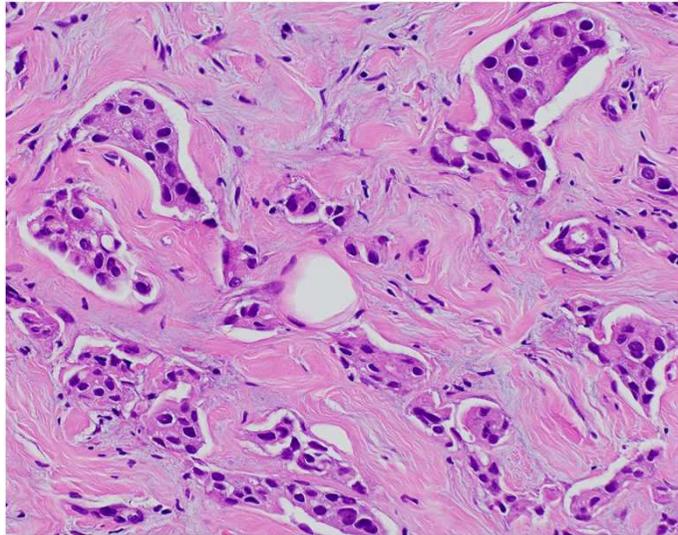


40×25mm  
のnon-mass enhancement lesion



小さな結節状増強効果が見られ、乳管に沿ったような帯状の増強効果を乳頭側へ認める。

# 組織診



- ▶ 浸潤性乳管癌、HG2, ER90, PR30, HER2 2+(DISH陽性), Ki67 15-20%

# 経過

- ▶ 組織診にて浸潤性乳管癌、HG2, ER90%, PR30%, HER2 2+ (DISH 陽性), Ki67 15-20%
- ▶ 右腋窩リンパ節細胞診で陽性。
- ▶ CTで遠隔転移なし。腋窩リンパ節腫大は1個のみ。cT2N1M0 stage II B
- ▶ 術前薬物療法の方針とした。

# Discussion

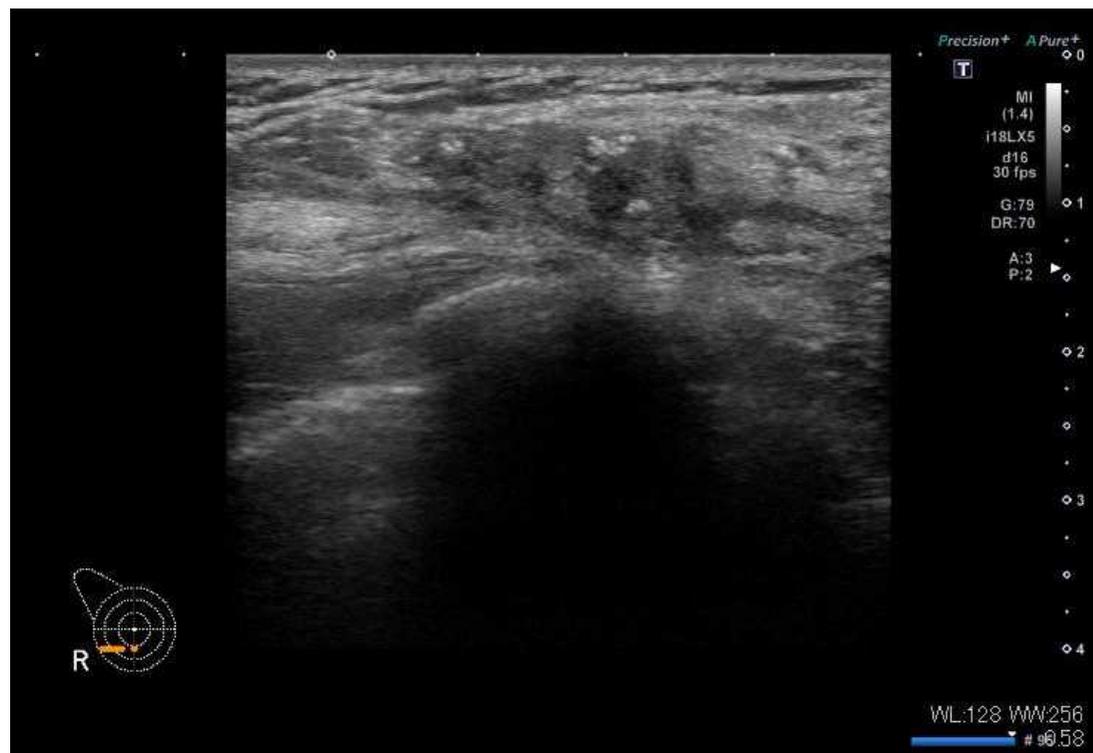
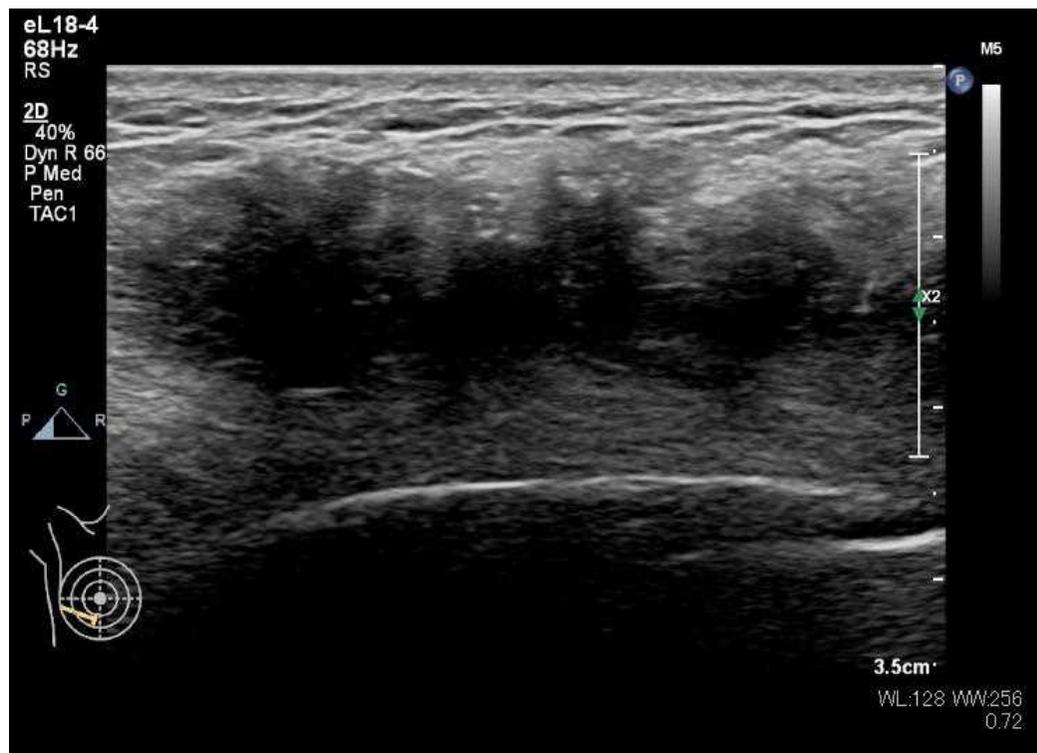
- ▶ 治療前に確認、説明すべきことはありますか？
- ▶ 薬物療法のレジメンはどうしますか？

# 治療經過

右乳房

治療前

治療後



42.3×27.4×13.4mm



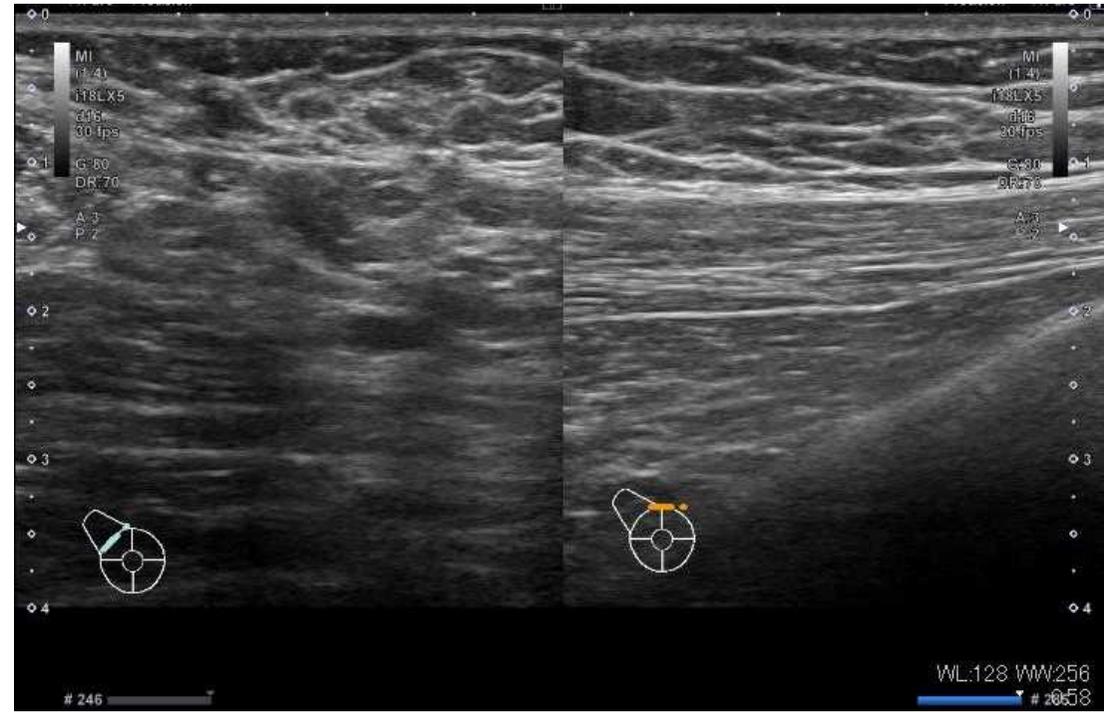
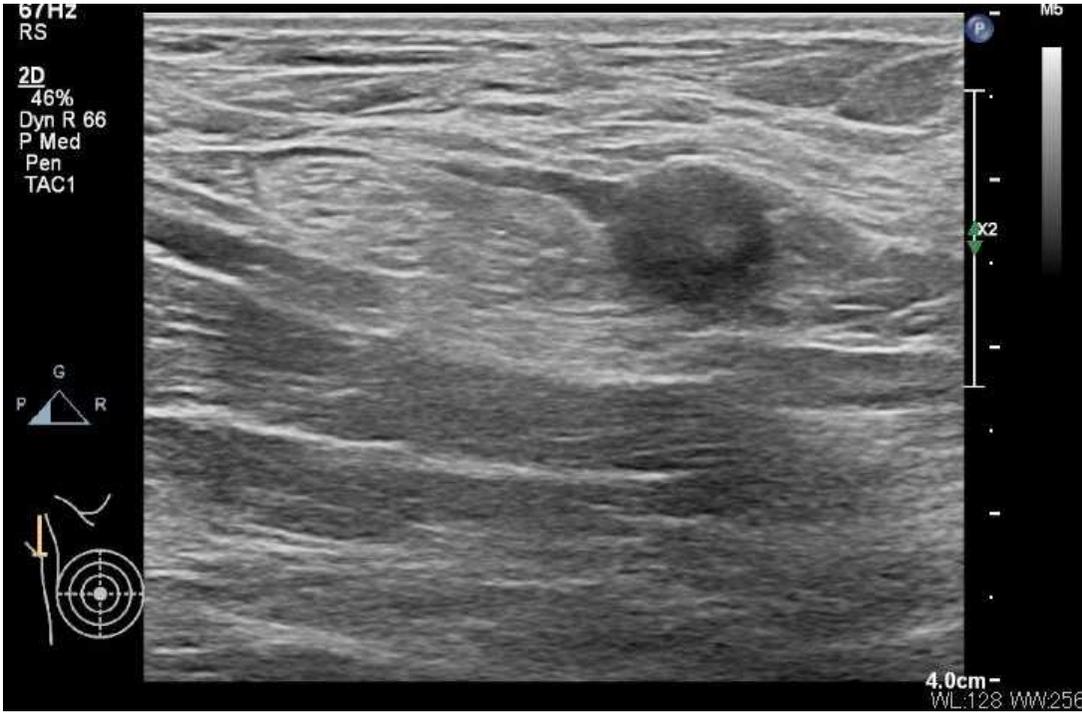
23.1×18.7×5.4mm

# 治療経過

右腋窩リンパ節

治療前

治療後



腫大LNはほぼ消失

# 治療経過

治療前

治療後



40×25mm  
のnon-mass enhancement lesion

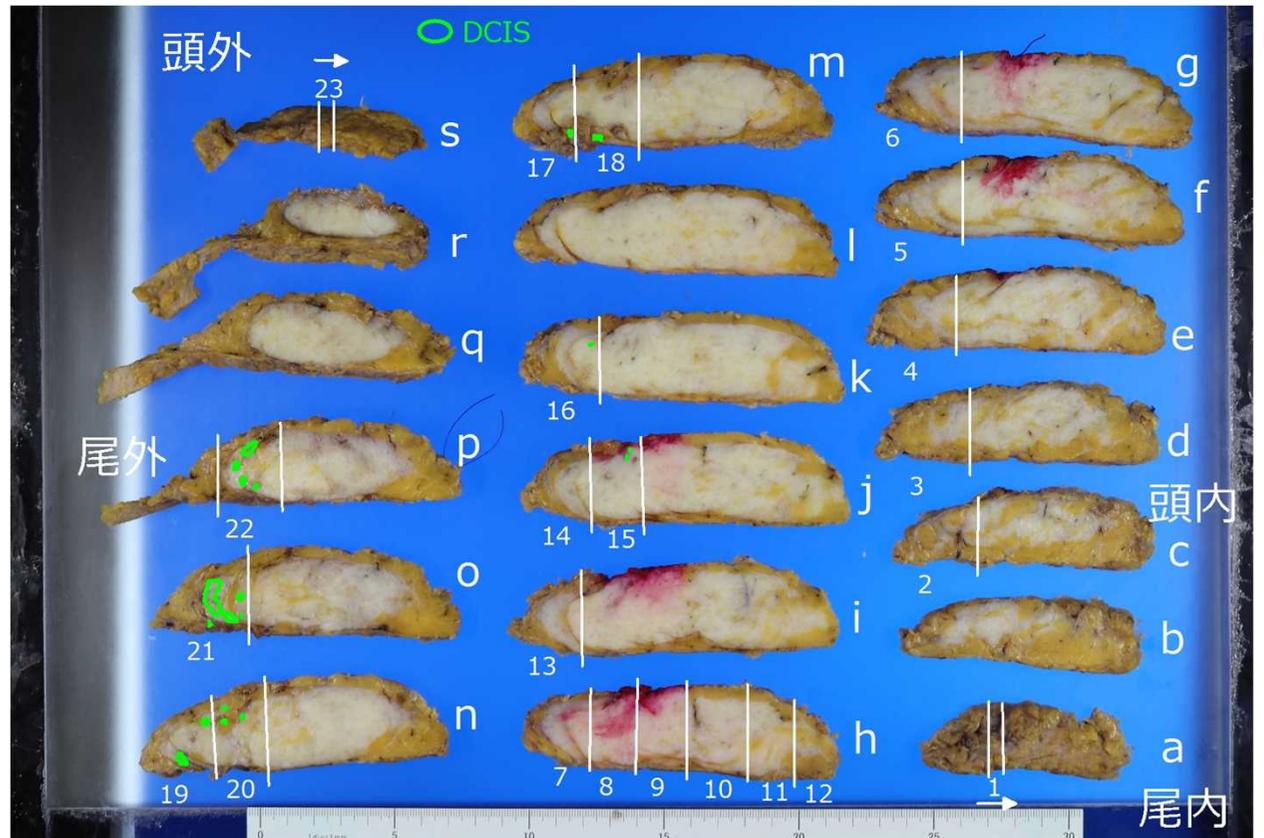


## Discussion

- ▶ 術前化学療法中に施行した遺伝子検査では、*BRCA1/2*遺伝子変異陰性、との結果であった。術式はどのようにしますか？

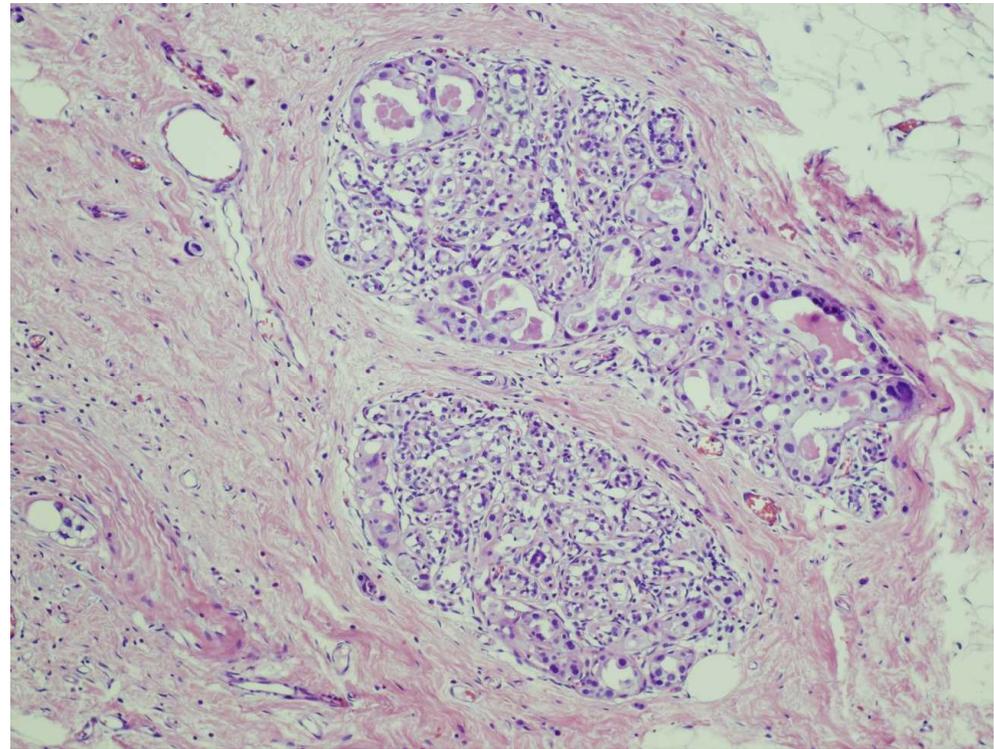
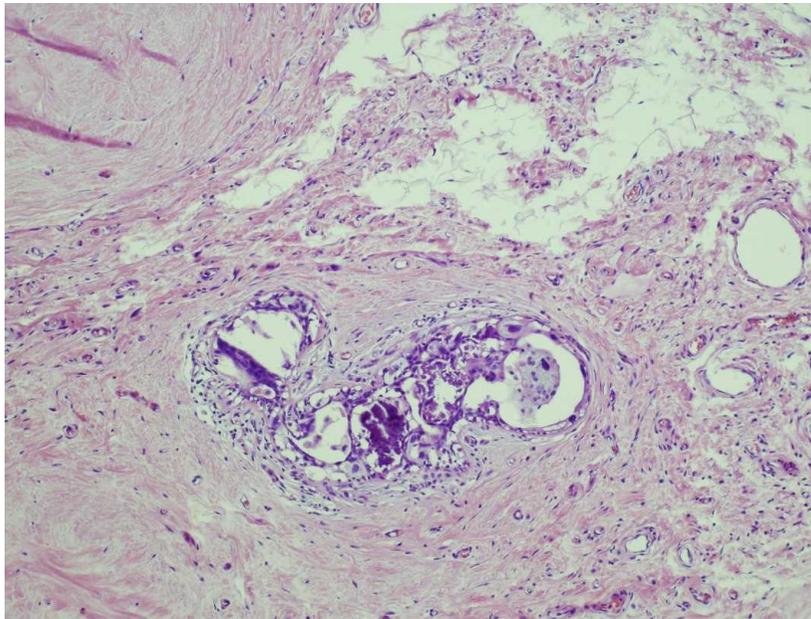
# 手術所見

- ▶ 右乳房全切除術 + 同時再建術 (TE) + 腋窩リンパ節郭清



## 病理所見

- ▶ No evidence of residual invasive ductal carcinoma
- ▶ DCIS, residual, ypTis, ypN0 (0/19)



## 経過

- ▶ 術前化学療法を行い、手術を施行（右乳房切除＋同時再建術＋腋窩リンパ節郭清）。
- ▶ 病理組織結果は、pCR(非浸潤部のみ残存)、pN0であった。

# Discussion

▶ 術後薬物療法のレジメンと至適投与期間は？

①抗HER2療法

②内分泌療法